

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
（分担研究報告書）

初期研修受講後の到達アウトカム評価

研究分担者 八巻知香子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部（室長）  
研究協力者 小郷 祐子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部（専門職）  
研究協力者 高橋 朋子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部（研究員）  
研究協力者 齋藤 弓子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部（研究員）

研究要旨：がん相談に関する初期研修と位置付けられる基礎研修は、講義型研修の基礎研修(1)(2)と、演習型研修の基礎研修(3)で構成されている。本研究では、基礎研修(3)のプログラムで実施された研修の質を測定するためのアウトカム評価指標を検討すること目的とする。「Ⅰ. 事前・事後知識確認テスト」および「Ⅱ. 研修前・研修後の業務意識アンケート」により到達アウトカムを測定した。

「Ⅰ. 事前・事後知識確認テスト」では、事前事後で有意な差がみられたのは、事例検討型の設問のうちの2項目に限られたが、それらはいずれも、事後に正答率が上がる傾向にあった。有意差のない項目の中には正答率が下がった項目も見られたが、これは今回の出題形式が多数の選択肢の組み合わせを正確に見定める必要があるという回答の困難さも影響している可能性がある。また、「Ⅱ. 研修前・研修後の業務意識アンケート」では、多くの項目で有意な差が見られ、個々の観点がより意識されるようになる傾向にあった。これらの点から、本研究で用いたテストと業務意識アンケートにより、本研修で狙った学習効果をアウトカムとして測定できたと考えられる。一方で、特に「Ⅰ. 事前・事後知識確認テスト」については、選択肢の設定が複雑すぎるために得点が下がった可能性が疑われる回答もあり、よりの確に到達アウトカムが評価できる設問形式にする工夫の余地があると考えられた。

#### A. 研究目的

がん診療連携拠点病院（以下、拠点病院）に設置されたがん相談支援センターでは、がんに関するあらゆる困りごとの相談を受け、患者や家族、その他の相談者が必要とする信頼できる情報を提供する役割を担う。拠点病院には、国立がん研究センターの基礎研修(1)(2)(3)を修了した相談員を2名以上配置することが求められている。がん相談に関する初期研修と位置付けられる基礎研修は、講義型研修の基礎研修(1)(2)と、演習型研修の基礎研修(3)で構成されている。

基礎研修(1)(2)は、がん対策やがん相談支援センターの位置づけ、がん相談支援に必要ながん医療、がん患者の社会的課題やその対応等幅広く基本的知識を習得するものである。現在はE-learningとして提供するとともに、テストが設定されたコースも設けられており、テストの受講自体は任意ではあるが、知識の定着を確認することが可能となっている。

基礎研修(3)は、2日間の演習型研修で、グループワークの中で、対象者（相談者）理解と相談支援のプロセスを学ぶ研修である。グループの議論に助言を与え、議論を深める役割を担う「グループファシリテーター」

と、会場全体を進行しながら、グループ発表から共通の学びを担う「チーフファシリテーター」によって運営される。2008年以降、対面の集合形式で開催してきたが、2021年以降はオンライン会議システムのブレイクアウト機能等を用い、オンライン型の集合研修として開催している。

この基礎研修(3)の開催方式の特性から、研修に参加可能な人数が限られており、受講希望者のニーズに応えきれない状況が続いてきた。令和4年8月の整備指針では「病院を挙げて全人的な相談支援を行う」とされており、これまで以上に多くの医療者にがん相談支援に関わる初期研修が必要とされるが、演習型の集合研修という特性から、国立がん研究センターによる提供の量的拡大は困難である。求められる量の研修提供のためには、多様な主体によって開催されたとしても、実施された研修の質が保たれたものであるための手順を整える必要がある。

よって本研究では、基礎研修(3)のプログラムで実施された研修の質を測定するためのアウトカム評価指標を検討すること目的とする。

## B. 研究方法

### 1. 研修プログラムの概要

2023年10月の2日間に国立がん研究センターが主催する基礎研修(3)と同一のオンラインプログラムを、国立がん研究センター、パブリックヘルスリサーチセンター、日本がん看護学会、日本医療ソーシャルワーカー協会、日本がん相談研究会の合同主催として、これらの団体を通じて募集した医療資格保持者に提供した。

#### 【学習内容】

- 相談員としての基本姿勢を学ぶ
- 多面的な対象者理解、アセスメント、課題、支援(相談の展開)を含む「相談支援のプロセス」を学ぶ

#### 【実施形態】

- 2日間、オンライン開催。
- 無料
- プログラム、テキスト、講師・副講師は、国立がん研究センター相談員基礎研修(3)を繰り返し経験した者が担当
- 本研究の趣旨を理解し、研究協力を同意した受講者22人

#### 【スケジュール】

##### 1日目

	時間	内容
アンケート	8:55~9:25	30 説明・当日アンケート
導入	9:25~9:50	25 挨拶ノオリエンテーション
Session1 (スライド7~21)	9:50~10:20	30 アイスブレイク
	10:20~10:30	10 休憩
	10:30~12:00	90 <事例1>子宮頸がん患者への相談支援
	12:00~13:00	60 昼休み (つづき)
Session2 (スライド23~53)	13:00~14:45	105 <事例1>子宮頸がん患者への相談支援
	14:45~15:00	15 休憩
	15:00~15:40	40 全体共有
	15:40~15:50	10 休憩
	15:50~16:20	30 セッション2の振り返り
2日目に向けて	16:20~16:30	10 2日目に向けて

##### 2日目

	時間	内容
アンケート	8:55~9:25	30 説明・当日アンケート
導入	9:25~9:50	25 挨拶ノオリエンテーション
Session1 (スライド7~21)	9:50~10:20	30 アイスブレイク
	10:20~10:30	10 休憩
	10:30~12:00	90 <事例1>子宮頸がん患者への相談支援
	12:00~13:00	60 昼休み (つづき)
Session2 (スライド23~53)	13:00~14:45	105 <事例1>子宮頸がん患者への相談支援
	14:45~15:00	15 休憩
	15:00~15:40	40 全体共有
	15:40~15:50	10 休憩
	15:50~16:20	30 セッション2の振り返り
2日目に向けて	16:20~16:30	10 2日目に向けて

## 2. 調査方法

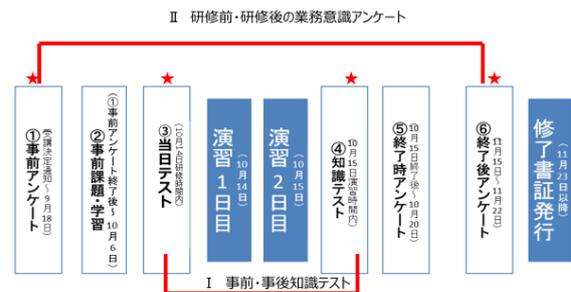
### I. 事前・事後知識確認テスト

研修1日目の研修冒頭および、2日目の研修最後に、がん相談の基本的スキルや相談事例のアセスメント等の正誤テストを実施した。

テストは複数の選択肢の中から正誤の組み合わせを回答する方式である。知識を問う設問が7問、事例のビニエットを示し、考慮すべき観点を回答する設問(事例検討)が5問の計12問である。テスト項目については、表1に示した。

### II. 研修前・研修後の業務意識アンケート

研修の事前学習前(研修約1か月前)、研修終了後、研修終了1か月後の3時点で、後に、がん相談の基本姿勢・相談員の役割・コミュニケーションスキル・アセスメント・情報提供/支援・継続的サポート・他職種・他機関連携の7領域25項目について、普段の相談業務での認識について、尋ねた。各項目に対して、意識している程度を「全く意識していない(1点)」~「強く意識している(4点)」の4件法で尋ねるアンケートを実施した。



★は、基礎研修(3)にはなく、本研究のアウトカム評価指標作成のため、試行的に導入

### 3. 分析方法

「I. 事前・事後知識確認テスト」については、正答率を McNemar検定 Wilcoxon の符号付き順位検定、「II. 研修前・研修後の業務意識アンケート」については、平均得点を Wilcoxon の順位和検定 対応のあるt検定を用いて比較した。

#### (倫理面への配慮)

本研究は教育プログラムの効果の測定を目的としたもので、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の適用範囲に該当しない。すべての研究協力者には、研究の目的と被る可能性のある利益、不利益について十分に説明し、研究参加への同意を得て実施した。収集したデータは、個人を特定できる情報を除外したうえで分析に用いた。

### C. 研究結果

受講者22名の属性は、平均年齢(±SD)46.4歳± 8.6歳、女性が100%、看護師が59.1%、拠点病院以外に所属する者が45.5%、がん相談の平均経験年数3年であった。

#### I. 事前・事後知識確認テスト

事前・事後のテスト結果の正答率を表1に示した。全12問のうち、「知識」を問う7問に有意な差はなかった。事例検討の設問のうち「他職種や他機関連携」と「相談員としての対応」の正答率が研修前に比べ研修後に有意に高くなった。

#### II. 研修前・研修後の業務意識アンケート

研修前・研修後の業務意識アンケートの項目別平均点を表2に示した。25項目のうち、17項目で、研修前に比べ研修後に「意識している」割合が高くなった。領域別にみると、全7領域(基本姿勢、がん専門相談員の役割、コミュニケーションスキル、アセスメント、情報提供/支援、継続的サポート、他職種・他機関連携)をカバーする17項目が研修1か月前に比べ1か月後に有意に高い得点であった。

#### D. 考察

「I. 事前・事後知識確認テスト」では、事前事後で有意な差がみられたのは、事例検討型の設問のうちの2項目に限られたが、それらはいずれも、事後に正答率が上がる傾向にあった。有意差のない項目の中には正答率が下がった項目も見られたが、これは今回の出題形式が多数の選択肢の組み合わせを正確に見定める必要があるという回答の困難さも影響している可能性がある。

また、「II. 研修前・研修後の業務意識アンケート」では、多くの項目で有意な差が見られ、個々の観点がより意識されるようになる傾向にあった。

これらの点から、本研究で用いたテストと業務意識アンケートにより、本研修で狙った学習効果をアウトカムとして測定できたと考えられる。一方で、特に「I. 事前・事後知識確認テスト」については、選択肢の設定が複雑すぎるために得点が下がった可能性が疑われる回答もあり、よりの確に到達アウトカムが評価できる設問形式にする工夫の余地があると考えられる。

#### E. 結論

「I. 事前・事後知識確認テスト」および「II. 研修前・研修後の業務意識アンケート」により、研修による到達アウトカムの測定ができた。しかし、設問形式の設定については工夫の余地を残した。

#### F. 健康危険情報

該当なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

該当なし

##### 2. 学会発表

八巻知香子. がん専門相談員研修提供ネットワークの構築ーがん相談支援センター外にも、がん相談スキルをもった医療職者を増やしていくための研修提供プログラムー. 第61回日本癌治療学会学術集会. 2023. 10. 19-21.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

##### 1. 特許取得

該当なし

##### 2. 実用新案登録

該当なし

##### 3. その他

該当なし